

# サーモメカニカルアブレーションによるマイボーム腺機能不全への有効性-多施設研究-

有田 玲子<sup>1)</sup>, 福岡 詩麻<sup>2)</sup>, 須磨崎 さやか<sup>3)</sup>, 堀 裕一<sup>3)</sup>

伊藤医院<sup>1)</sup>, 大宮はまだ眼科西口分院<sup>2)</sup>, 東邦大<sup>3)</sup>

【目的】サーモメカニカルアブレーション (TMA®) はピラミッド型チタン合金製のチップを約400℃の均一な温度に加熱し、皮膚に短時間接触させることで熱を伝達するシステムである。海外でマイボーム腺機能不全 (MGD) 患者に対する本技術の有効性が報告されている。今回、わが国のMGD患者に対するTMA®の有効性をドライアイ検査複合機 (idra) を用いて3施設で検討した。

【対象と方法】18歳以上で本研究に同意を得られたMGD患者の両眼に対しTMA® (Tixel C, Novoxel社) を2週毎3回治療した。パルス幅6ms、深度400μmで、上下眼瞼に10ショットずつ2列で照射した。検査は、治療前 (baseline)、2・3回目の治療前、最終治療4週間後に行った。検査パラメータは、自覚症状 (SPEED)、涙液油層厚 (LLT)、涙液メニスカス高 (TMH)、NIBUT、Plugging (0-3)、Vascularity (0-3)、マイバムの量と質 (各0-3) マイボスコア (0-6) とした。

【結果】解析対象となったMGD患者は、11名 (男性2名、女性9名、平均年齢56.3±16.4歳) だった。SPEED、Plugging、Vascularity、マイバムの量がbaselineより治療後有意に改善した (各P<0.001)。NIBUT、マイバムの質は治療後1ヵ月後に有意に改善した (P=0.038、P=0.019)。LLT、TMH、マイボスコアは変化がなかった。

【結論】TMA®はMGDに対する治療法のひとつのオプションとなる可能性が示唆された。今後、さらなる症例数で長期の検討が必要と考えられた。

---

【利益相反公表基準】 該当有

【IC】 取得有

【倫理審査】 承認有